

日本国特許庁  
PATENT OFFICE  
JAPANESE GOVERNMENT

PCT/JP 00/02420  
13.04.00

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。  
This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office.

出願年月日  
Date of Application:

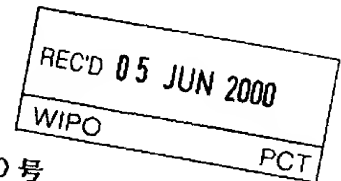
1999年 4月14日

出願番号  
Application Number:

平成11年特許願第154200号

出願人  
Applicant(s):

新井 泉

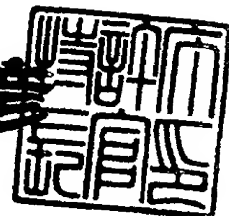


PRIORITY  
DOCUMENT  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 5月19日

特許庁長官  
Commissioner,  
Patent Office

近藤 隆彦



出証番号 出証特2000-3037071

【書類名】 特許願

【整理番号】 712018-ARM

【提出日】 平成11年 4月14日

【あて先】 特許庁長官殿

【発明の名称】 生命永久更新法

【請求項の数】 1

【発明者】

【住所又は居所】 東京都足立区千住緑町2丁目19番16号ルボア301  
号室

【氏名】 新井 泉

【フリガナ】 ナイ イミ

【特許出願人】

【住所又は居所】 東京都足立区千住緑町2丁目19番16号ルボア301  
号室

【氏名又は名称】 新井 泉

【フリガナ】 ナイ イミ

【電話番号】 03-3870-0718

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 生命永久更新法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 生物の細胞，組織，器官の再生などにより臓器を作成し，交換し，生命を未来永久に更新させる。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

〔発明の属する技術分野〕

本発明は，生物学および生命科学の分野に属する。

【0 0 0 2】

〔従来技術〕

従来，生物は死ぬと考えられていた。

【0 0 0 3】

〔発明が解決しようとする課題〕

生物を死から開放する。

【0 0 0 4】

〔課題を解決するための手段〕

上記目的を達成するために，本発明は，生物の細胞，組織，器官の再生などにより臓器を作成し，交換するという過程を繰り返すものである。

【0 0 0 5】

〔発明の実施の形態〕

図面を参照して説明する。

まず図 1 において個体の細胞から卵へ核移植を行なう。同じ遺伝子タイプを持つ個体からの細胞 1 を極体と染色体を除いた未受精卵に入れ，細胞融合により核 2 を移動させる。

【0 0 0 6】

核移植後の卵 3 を人工器官などの培養器や大綱，子宮などの生体による培養 4 で育成し，クローン体 5 の細胞，組織，器官などの再生臓器 6 を図 2 のように生ずる。葉緑体，ミトコンドリア，鰓，翼など異種細胞の取り込みも可能である。

## 【0007】

病気、事故などによる障害個体 8 の細胞、組織、器官などの障害臓器 7 を再生臓器 6 と交換し、健康個体 9 を回復させる。障害臓器 7 は吸収あるいは摘出除去されるが、一部再利用も可能である。クローン体 5 も再利用できる。なぜなら、分化した細胞からも個体発生が可能だからである。従って、個体から器官へ、組織へ、そして細胞という基本レベルに立ち返ることによって、障害された個体、器官、組織からも健全な個体などを回復できる。また、各レベル間の融合も可能となる。

## 【0008】

各細胞、組織、器官について、以上の過程を図 2 のように繰り返すことによって健康個体 9 を維持する。病気や事故などで障害される臓器はその都度多様であり、それに応じて本発明のプロセスを反復することで生命を未来へ向かって永久に更新させてゆくことができる。人工の素材や、外部刺激による体内での大きな障害の自発治癒をも併用できる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図 1】

個体の細胞から核移植した卵を培養する図である。

## 【図 2】

作成したクローン体の細胞、組織、器官などの再生臓器を病気や事故などの障害個体における細胞、組織、器官などの障害臓器と交換し、健康個体を回復する図である。

## 【符号の説明】

- 1 同じ遺伝子タイプを持つ個体からの細胞
- 2 核
- 3 卵
- 4 人工器官などの培養器や大網、子宮などの生体による培養
- 5 クローン体
- 6 細胞、組織、器官などの再生臓器
- 7 細胞、組織、器官などの障害臓器

### 産業上の利用可能性

以上のように、本発明は、多種多様な病気や事故などによる障害個体の細胞、組織、器官などそれぞれの障害臓器を、同じ遺伝子タイプを持つ健康な細胞、組織、器官などの再生臓器と

5 新しく交換することによって、健康な個体を永久に維持してゆくことができる。この過程を未来へ向かって継続的に繰り返しながら、生存に適するさらに良質な遺伝子への置き換えや、人工素材などの併用や、新しいエネルギーの利用システムなどを、この

10 反復プロセスに組み入れることで、交換する細胞、組織、器官などの臓器性能をますます向上させ、より多面的に進化する個体を創造し、生命を永久に更新させてゆくことができるものである。

## 請 求 の 範 囲

1. 生物の細胞、組織、器官の再生などにより健康な臓器を新しく作成し、病気や事故などによる障害個体の細胞、組織、器官などの
- 5 障害臓器と、交換する、という過程を繰り返すことによって、健康な個体を永久に維持し、生物を死から解放する。この過程を未来へ向かって継続的に反復しながら、より良質な遺伝子への置き換えや人工素材や新しいエネルギーシステムの併用などをこの
- 10 プロセスに組み入れ、細胞、組織、器官などの臓器性能を向上させ、多岐にわたり進化する個体を創造し、生命を永久に更新させてゆく。

## 明 細 書

## 生命永久更新法

## 技術分野

この発明は、生物学および生命科学の分野に属する。

5

## 背景技術

従来、生物は死ぬと考えられていた。

## 発明の開示

- 10 本発明は、生物を死から解放する。この目的を達成するため、本発明は、生物の細胞、組織、器官の再生などにより、臓器を作成し、交換する、という過程を繰り返すものである。

## 図面の簡単な説明

- 15 第1図は、個体やクローン体の細胞から核移植した卵を培養する図である。第2図は、作成したクローン体の細胞、組織、器官などの再生臓器を、病気や事故などの障害個体における細胞、組織、器官などの障害臓器と交換し、健康個体を回復する図である。

20

## 発明を実施するための最良の形態

本発明をより詳述するために、添付の図面に従ってこれを説明する。

まず、第1図において、個体やクローン体の細胞から卵へ核移植を行なう。つまり、同じ遺伝子タイプを持つ個体からの細胞1を、極体と染色体を除いた未受精卵に入れ、細胞融合により核2を移動させる。

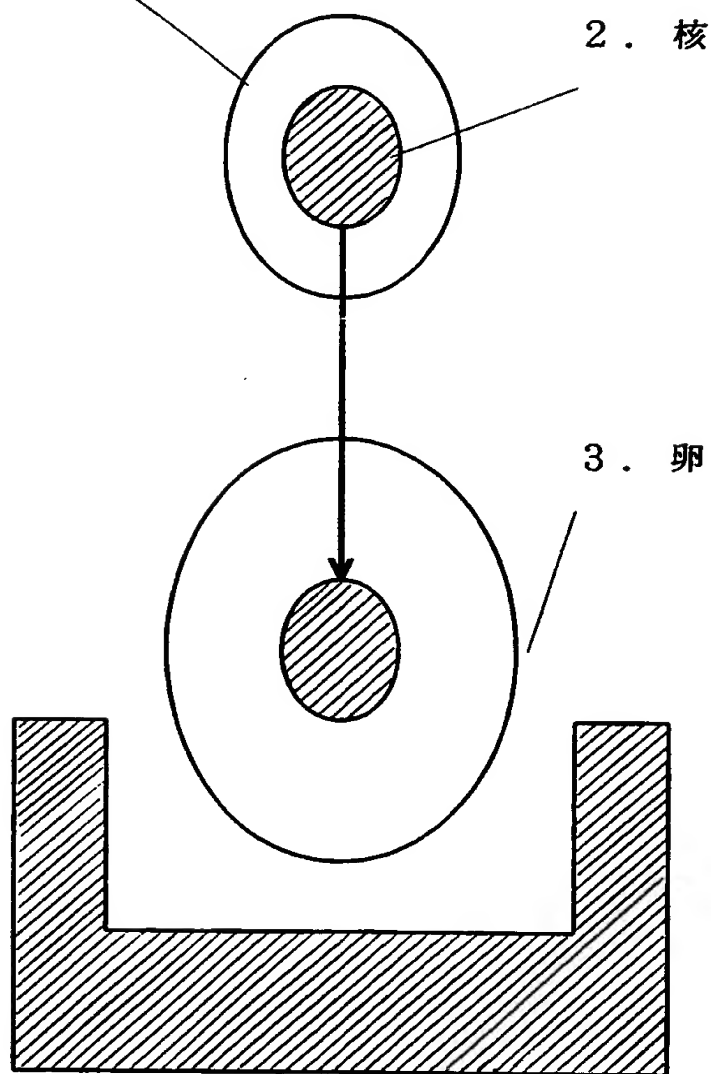
- 5 核移植後の卵3を人工器官などの培養器や大網、子宮などの生体による培養4で育成すると、第2図のように、クローン体5の細胞、組織、器官などの再生臓器6を生ずる。葉緑体、ミトコンドリア、鰓、翼など、異種の細胞、組織、器官などの取り込みも可能である。
- 10 病気や事故などによる障害個体8の細胞、組織、器官などの障害臓器7を、健康な細胞、組織、器官などの新しい再生臓器6と交換し、健康個体9を回復させる。障害個体8の細胞、組織、器官などの障害臓器7は、吸収あるいは摘出除去されるが、一部再利用も可能である。。クローン体5も、再利用できる。なぜなら、分化した細胞からも個体発生が可能だからである。従って、
- 15 個体から、器官へ、組織へ、そして細胞という基本レベルに立ち返ることによって、障害された個体、器官、組織、細胞などからも、健全な個体、器官、組織、細胞などを回復できる。また、各レベル間の融合も可能となる。
- 20 以上の過程を、それぞれの細胞、組織、器官などについて、第2図のように繰り返すことによって、健康個体9を維持する。病気や事故などで障害される臓器は、その都度、多様であり、それに応じて本発明のプロセスを反復することによって、生命を未来へ向かって永久に更新させてゆくことができる。人工の素材
- 25 や、外部刺激による体内の障害の自発治癒をも併用できる。



## 第 1 図

1. 同じ遺伝子タイプを持つ

個体やクローン体からの細胞



2. 核

3. 卵

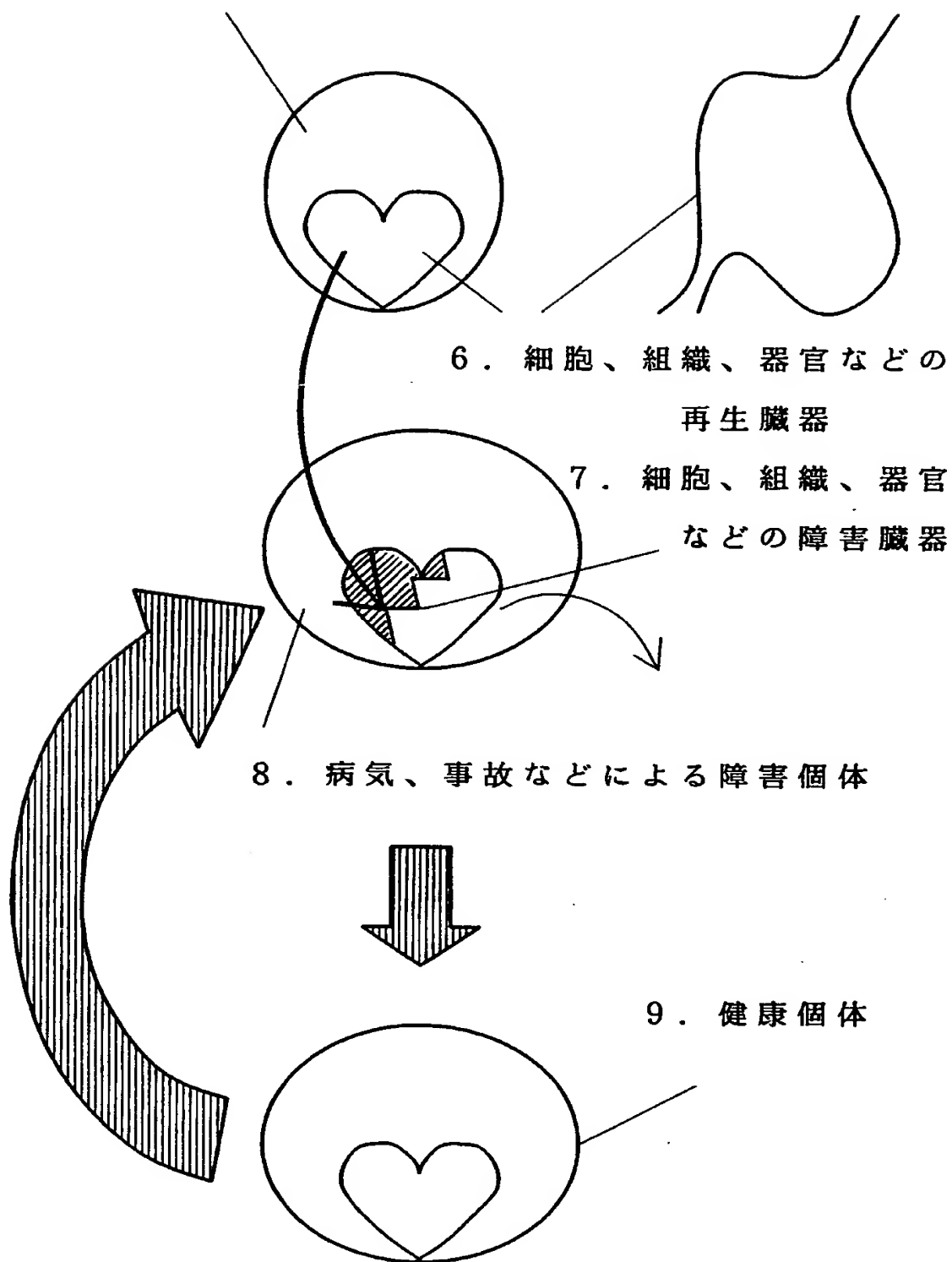


4. 人工器官などの培養器や  
大網、子宮などの生体による  
培養



第 2<sup>2/2</sup> 図

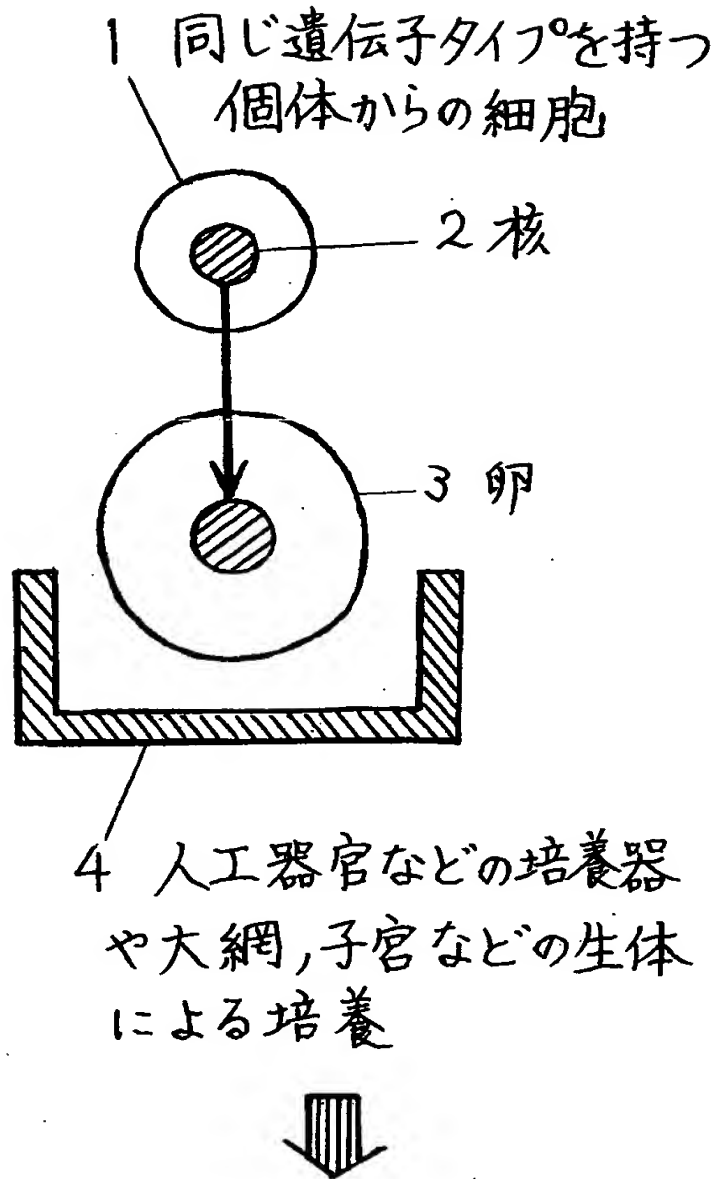
5. クローン体





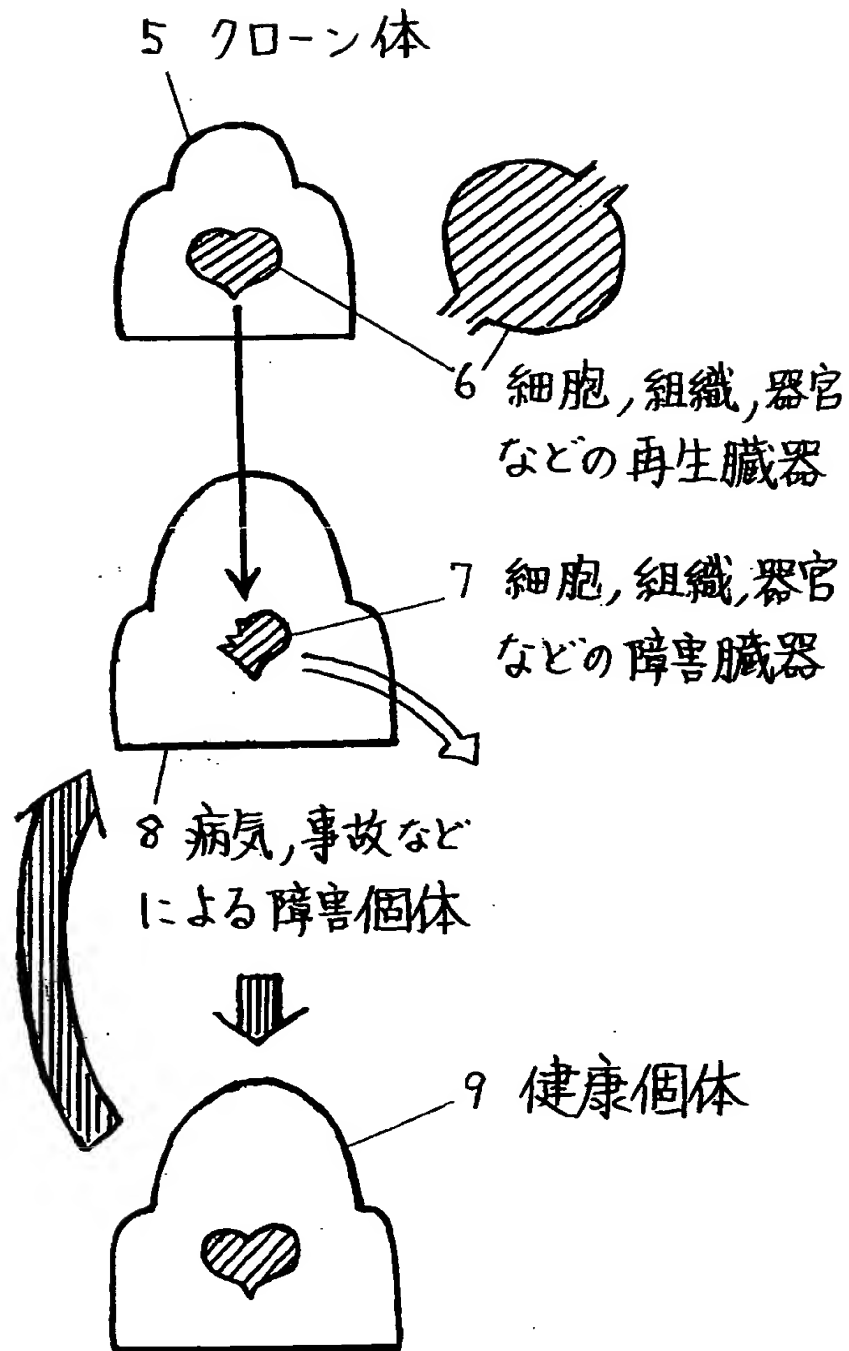
【書類名】 図面

【図 1】



- 8 病気, 事故などによる障害個体
- 9 健康個体

【図 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 従来死ぬと考えられていた生物を死から解放し、生命を永久に更新させてゆく。

【解決手段】 個体の細胞 1 から核 2 移植した卵 3 を培養 4 し、作成したクローン体 5 の細胞、組織、器官などの再生臓器 6 を、病気、事故などによる障害個体 8 の細胞、組織、器官などの障害臓器 7 と交換し、健康個体 9 を回復するというプロセスを繰り返す。

【選択図】 図 2



出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [599074350]

1. 変更年月日 1999年 4月14日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都足立区千住緑町2丁目19番16号ルボア301号室

氏 名 新井 泉



1  
2  
3

4  
5  
6